

ファラデーに魅せられて（8）

「ファラデーはいかにして新発見をできたか」

日時：令和5年3月9日（木）

14：00～15：00

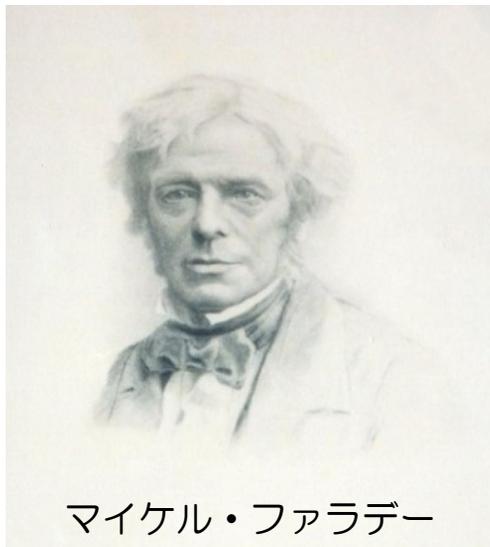
講師：金児 紘征 氏（秋田大学名誉教授）

会場：秋田大学大学院国際資源学研究科
附属鉱業博物館 講堂

〒010-8502 秋田市手形字大沢28-2 電話 018-889-2461

（聴講無料 事前申込不要）

ファラデーのように、大発見、小発見を立て続けにしたとなるとそれが偶然のなせる技とは到底思えない。どのようにして新発見をなし得たのかを彼の研究の仕方から解き明かしたい。



マイケル・ファラデー

（1791-1867）

化学研究

- ・ 1816年 最初の研究論文
- ・ 1818-24年 合金鋼の製造と性質
- ・ 1820-26年 ベンゼンの発見など有機化学
- ・ 1823年、1845年 ガスの液化
- ・ 1825-31年 光学ガラスの製造
- ・ 1834年 白金の触媒効果、触媒化学
- ・ 1833-36年 電気分解の法則、電気化学
- ・ 1857年 金コロイド、コロイド化学

物理研究

- ・ 1821年 電磁回転
- ・ 1831年 電磁誘導の法則
- ・ 1836年 ファラデーケージ
- ・ 1845年 ファラデー効果
- ・ 1845年 反磁性体の発見
- ・ 1845年 場（電場、磁場）の概念の初出
- ・ 1849年 電磁気力と重力の関係（失敗）
- ・ 1862年 原子スペクトルの磁気効果の試み